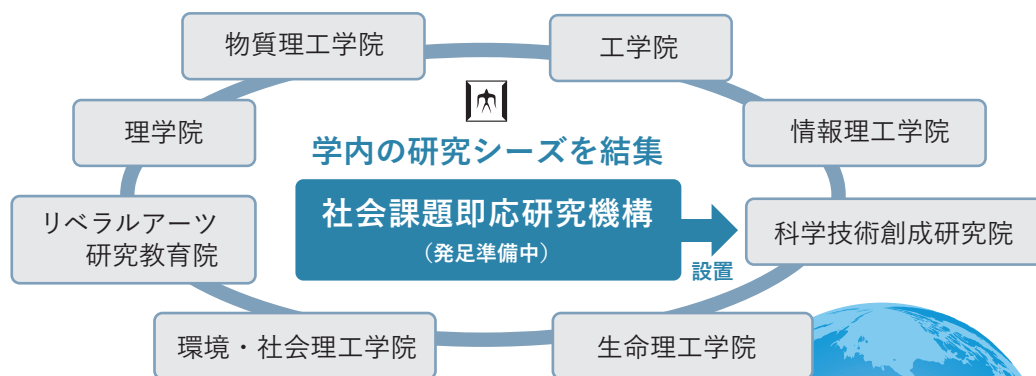


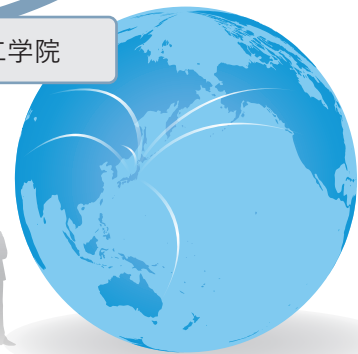
東京工業大学における脱コロナ禍研究プロジェクトについて

社会課題即応研究機構(仮称)

各国の主要都市を次々とロックダウンに追い込み、人類の生命を脅かす新型コロナウイルスが引き起こした危機に対して、科学・技術でどのように対抗していくのかは、まさに大学が取り組むべき喫緊の研究対象です。ウイルスへの対応は医薬系の研究がその中心になりますが、このウイルス禍による数々の課題は、異分野が融合し、広く科学・技術が協働して対処するべきものと言えます。そこで、今後科学技術創成研究院が社会課題に即応した研究を迅速に実施し、豊かな未来社会づくりに貢献していく活動として、1年単位の短期集中または基礎研究に立脚した3年程度の中期的視点で、重要社会課題に関連した研究を推進する「社会課題即応研究機構」の形成を提案します。



喫緊の社会課題に対して 研究者の叡智を結集して立ち向かう



Project No.1

脱コロナ禍研究プロジェクト

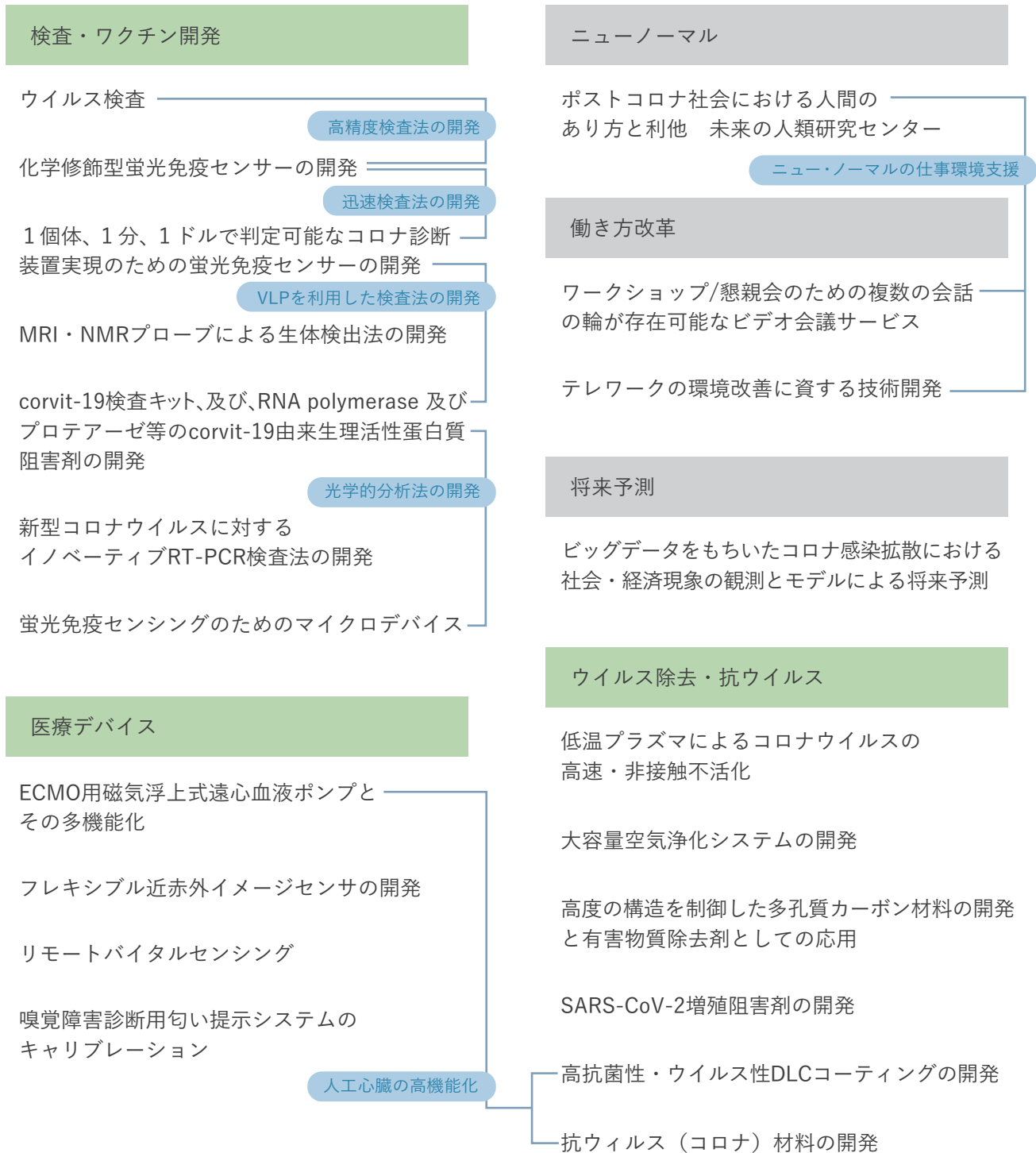
喫緊の社会課題に対して研究者の叡智を結集して立ち向かう

社会課題即応研究機構に置く研究プロジェクトの第1号として、新型コロナウイルスを取り上げ、「脱コロナ禍研究プロジェクト」を2020年6月5日に発足させました。



コロナ禍による社会の課題を解決するためには、焦眉の急となっているワクチン・治療薬開発だけでなく、医療デバイスや将来予測、働き方、ニュー・ノーマルへの理解など様々な課題があります。また、「課題の本質」を考えることも重要で、科学・技術と人文・社会科学双方の力が求められることから、社会と共に豊かな未来社会をデザインすることを目的とする本学の未来社会DESIGN機構と連携した活動を展開していきます。本プロジェクトでは現在、以下の21件の研究が進行中で、複数の研究テーマ間での共同研究も実施しています。

脱コロナ禍研究プロジェクトの内容と協働



お問合せ